

群 教 セ	G05 - 07
	平16.218集

作品の見方を深める

図画工作科鑑賞指導の工夫

- 色や形などに着目して作った
問題についての語り合いを取り入れて -

長期研修員 大久保 純夫

《研究の概要》

本研究は、美術作品の色や形など造形的な要素に着目する見方を意識して、そうした見方で作品について語ったり友達の考えを知ったりすることによって、一人一人の作品の見方を深めようとするものである。具体的には「似たものペア探し」と題した活動で知った絵画作品の、色や形及び解釈を問いかける問題文を個別に作った後、グループ内で問題文を検討し合う場面と、問題発表会で問題を出し合う場面における語り合いの有効性を検証するものである。【キーワード：図画工作 鑑賞 作品の見方 色や形 語り合い】

主題設定の理由

「見ること」は、考えることや表現することと密接にかかわっている。対象をじっくりと見ることで、多くのことを認識したり豊かに感じ取ったりすることができるからである。コンピュータや周辺機器が発達し、伝達や表現の手段として様々な色や形を用いることが手軽にできるようになった現代は、誰もが視覚情報の発信者になれる時代である。そのような時代を生きる子供たちに、様々な視覚情報からいろいろなことを認識できる感性や見方を育てることは、生きる力を育てることにつながると考える。「見ること」の教育には重要な意義があり、その主たる役割は図画工作科が担うものである。したがって、鑑賞指導の充実を図る必要があると考える。このような理由から、造形的な対象を能動的にじっくりと見ることを促し、考えたことを友達同士で語り合うことを通して感性や作品の見方を育てたいと考え、図画工作科における鑑賞の実践的研究に取り組むことにした。

主題設定に先立って、子供たちの鑑賞経験の実態を把握するために、本校6年生全員に質問紙調査を実施した。その結果、子供たちがなじんでいる鑑賞は、自分たちの作品を製作後に見合うことであり、美術作品を鑑賞した経験のある子供はごく少数であった。子供たちの作品の見方は、直観的な印象で対象のよさや美しさなどをとらえたり自分の好みかどうかを判断したりする見方であることが分かった。その一方、ほとんどの子供は、色や形など造形的な要素を意識した見方をしていないことが明らかになった。

こうした実態から、直観的な見方に加えて造形的な要素に着目する見方を子供たちに意識付け、作品を鑑賞する際、そのような見方で友達と意見交換しながら作品の特徴に新たに気付いたり友達の考えを知ったりしてほしいと考えた。そのようにして友達と共感し合ったり新たな考えをもったり、あるいは自分の考えに自信をもったりすることは、子供たちが作品の見方を深めることであると考え、本主題を設定した。

主題に迫るための手だてとして、作品の色や形など造形的な要素に着目して個別に作った問題文についての語り合い、すなわち、友達同士で問題文を検討し合ったり問題を出して答えを求め合ったりする語り合いを取り入れることが有効と考え、副主題を設定した。

研究のねらい

図画工作科の鑑賞において、色や形などに着目して作った問題についての語り合いを取り入れれば、作品の見方を深めることができることを、実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 見方をつかむ過程において、個別に作った問題文を検討する語り合いを取り入れれば、色や形など造形的な要素に着目する見方を確かめることができるであろう。
- 2 見方を深める過程において、問題を出して答えを求め合う語り合いを取り入れれば、造形的な要素に着目して意見交換しながら友達の考えを知ることにつながり、作品の見方を深めることができるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 「作品の見方を深める」とは
本研究における「作品」とは、国内外の著名な絵画作品である。それらの作品は明確な主題をもち、色調や構図が調和しているので、子供たちが造形的な要素に着目して鑑賞するのに適した教材であると考えられる。

「作品の見方を深める」とは、本校の子供たちがこれまでの鑑賞でなじんでいる直観的な見方に、造形的な要素に着目する見方を加えて意見交換することで、幅広い見方で作品についての考えをもつようになることである。

(2) 「色や形などに着目して作った問題についての語り合い」とは

「色や形などに着目して作った問題についての語り合い」とは、見通し1と見通し2における語り合いを指す。具体的には以下の二つである。

個別に作った問題文を検討する語り合い

これは、作品に表現された事物や色・形などを根拠にして答えを導き出せる問題文であるかどうか、4～5人のグループで検討することによって、造形的な要素に着目する見方を確かめる語り合いである。

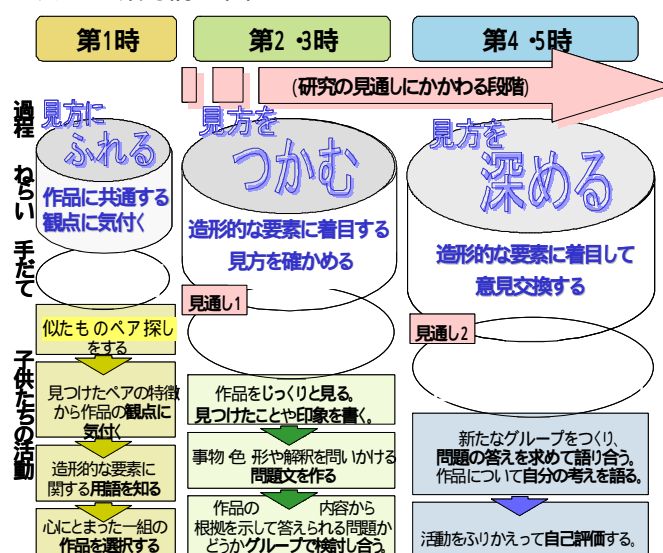
問題を出し合って答えを求め合う語り合い

これは、新たなグループ内で、造形的な要素に着目して意見交換することで、友達と共感し合ったり新たな考えをもったりして作品の見方を深める語り合いである。

(3) 問題文の作り方について

色や形など造形的な要素を意識して見たり考えたりするために、『指さして答えられる問題』と『考えて答える問題』の2種類を作るようにする。『指さして答えられる問題』とは、作品に描かれた事物や色や形などを問いかける問題である。例えば「人は何人描かれていますか。」「この二つの作品の似ている点を挙げてください。」などである。『考えて答える問題』とは

表1 研究構想図



解釈を問いかける問題である。例えば「この部屋に住んでいる人は、どんな人だと思いますか。」
「この絵の場面は何時ごろでしょう。」などである。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い、検証する。

(1) 授業実践計画及び抽出児童

対 象	渋川市立古巻小学校 6年3組 (男子20名 女子17名 計37名)
題材名	美術作品の『はてな?』を語り合おう (鑑賞)
期 間	平成16年10月 1・4・6日 (5時間)

抽出児童	児童A	児童B
	自分の作品について話したり友達の感想を聞いたりすることに恥ずかしさを感じているが、いろいろな作品を見ることは自分が何かをつくるときに役立つと考えている。問題作りや語り合いの場面で助言に努める、意見交換が行われるようにする。そうすることで造形的な要素に着目する見方を理解・活用し、作品の見方を深めることができたと実感できるようにしたい。	友達の作品を見ることを好んでいる。5年生の時、家族と美術館に行った記憶があるが、内容はほとんど覚えていない。鑑賞に関心をもっている子なので、語り合いの場面で必要に応じて助言を行い、意見交換が行われるようにする。そうすることで造形的な要素に着目する見方を理解・活用し、作品の見方を深めることができたと実感できるようにしたい。

(2) 検証計画

	検証場面	検証の視点	検証の方法
見通し1	見方をつかむ過程において、個別に作った問題文をグループ内で検討し合い語り合う場面	作った問題文が条件に合っているかどうか検討する語り合いを取り入れたことは、色や形など造形的な要素に着目する見方を確かめるのに有効であったか。	作った問題文の内容や、語り合いにおける発言、及び問題文の修正・追加などの様子から、造形的な要素に着目する見方ができているかどうか見取る。 自己評価の記録から、造形的な要素に着目する見方を理解できたかどうか見取る。
見通し2	見方を深める過程において、新たなグループ内の問題発表会で、問題を出して答えを求め合い語り合う場面	問題を出して答えを求め合い語り合いを取り入れたことは、造形的な要素に着目して意見交換しながら友達の考えを知ることによって作品の見方を深めるのに有効であったか。	語り合いにおける発言から、描写された事物や色や形など、造形的な要素に着目する見方でお互いの考えを出し合っているかどうか見取る。 語り合いの後に記録する自己評価から、造形的な要素に着目する見方を活用して語ったり聞いたりするとともに、友達の多様な考えを知ることができたかどうか見取る。

研究の展開

1 題材名

「美術作品の『はてな?』を語り合おう」(鑑賞)

2 題材の考察

本題材は、色や形など造形的な要素に着目して、絵画作品の特徴やよさなどについての考えを深める独立した鑑賞題材である。本題材の特色は、まず、著名な絵画作品の図版カードを用いた「似たものペア探し」を行い、その活動で知った作品について友達に問いかけるために作った問題文についての考えや答えを、グループで語り合うことである。

本題材は図画工作科学習指導要領第5学年及び第6学年の2内容B鑑賞(1)イ「我が国や諸外国の親しみのある美術、暮らしの中の作品などのよさや美しさ、表現の意図などに関心をもって鑑賞すること」にかかわっている。小学校高学年における美術作品鑑賞の導入期にふさわしい題材である。

3 目標及び評価規準

目標	・色や形など造形的な要素に着目する見方で、作品の特徴やよさなどについての考えを深める。	
題材の評価規準	おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
	関心・意欲・態度	
	・美術作品の図版を見比べて共通性の強いペアを見つけようとしている。 ・作品をじっくりと見て問題文を作ろうとしている。 ・友達の問題をよく聞いて考えたり自分の問題に対する考えを友達に求めたりしている。	・美術作品の図版をじっくりと見比べて共通性の強いペアをすすんで見つけようとしている。 ・作品をじっくりと見て、あれこれと試しながらより良い問題文を作ろうとしている。 ・友達の問題をよく聞いて考え、すすんで考えを述べたり自分の問題に対する考えをすすんで求めたりしている。
鑑賞の能力		
・色や形などに着目して考えることができる問題文を、種類を変えて作ることができる。 ・自分が選んだ作品の特徴やよさなどについての考えをもつことができる。	・色や形などに着目して考えることが問題文の種類を変えて複数ずつ作ることができる。 ・自分が選んだ作品の特徴やよさなどについてのいろいろな考えをもつことができる。	

4 指導と評価の計画

(全=全体 グ=グループ 個=個別)

段階	時間	形態	ねらい ・主な学習活動	主な学習活動と支援及び指導上の留意点	評価規準(評価方法)	
					関心・意欲・態度	鑑賞の能力
見方にふれる	1	全 グ 全	美術作品の図版カードを使った活動を通して造形的な要素に着目する見方にふれる。 ・学習のめあてをつかむ。 ・「似たものペア探し」をする。 ・作ったペアを発表し、その共通点を説明する。 ・絵を見るとき観点をを知る。	・本題材の学習の意義と主な活動内容を「学習ガイド」に記載しておくとともに、事前に説明する。 ・映像機器を使って作品の共通性を例示しながらペア探しの方法を説明する。 ・作品カードは20枚ずつに分けておき、学級を4～5人ずつのグループに分けて行う。 ・子供たちが作ったペアの共通性を、教師が「題材」「構図」「色調」など、造形に関する用語に言い換えて示すことで、造形的な要素を表す言葉を知ることができるようにする。	・美術作品の図版カードを見比べて、共通性の強いペアを見つけようとしている。(観察)	
		個 グ	問題文を作り、検討することを通して、色や形など造形的な要素に着目する見方を確かめ合う。 ・一人ひとりが選んだ作品のペアについての印象や疑問をもとに問題文を作る。 ・問題文をグループ内で検討し合う。 見通し1	・前時に知った造形に関する用語の意味を、作品のペアを見せながら確認する。 ・各自が気に入った作品のペアを一組選び、それらの作品を比較して気付いたことや思ったことをワークシートに記述する。 ・色や形などに着目して「指さして答えられる問題」「考えて答える問題」の2種類の問題をつくるようにする。 ・問題文が作れない子供には、ひな型を示すことで問題文が作れるようにする。 ・4～5人のグループで、作品の内容から根拠を示して答えることのできる問題文かどうかを確かめ合うようにする。その際、友達の問題に対する感想を述べ合う。 ・友達の感想を記入しておくようにする。	・作品をじっくりと見て問題文を作ろうとしている。(観察・記述内容) ・友達の問題をよく聞いて考えたり自分の問題に対する考えを友達に求めたりしている。(観察)	・色や形などに着目して考えることができる問題文を、種類を変えて作ることができる。(記述内容)
見方を深める・ふりかえる	2	グ 個 全	一人ひとりが選んだ作品についての問題を出し合いながら、作品の見方を深める。 ・問題発表会で問題を出して答えを求め合う。 見通し2 ・問題発表会の感想を書き、自己・相互評価する。 ・教師の話聞く。	・ポスターセッション風に時間を区切って問題を発表する。自分の発表の時以外は、グループの友達と一緒に他のグループの友達の問題発表を聞き、問題に答える。 ・人数が偏らないように順番に移動する。 ・発表の最後に、自分が選んだ作品についての印象や解釈を語るようにする。 ・自分の問題に対する友達の答えはどうだったか。また、友達の問題についての感想などを書いたり話したりする。 ・鑑賞の意義について話す。	・友達の問題をよく聞いて考えたり自分の問題に対する考えを友達に求めたりしている。(観察)	・自分が選んだ作品の特徴やよさなどについての考えをもつことができる。(観察・記述内容)

研究の結果と考察

1 問題文を検討する語り合いを取り入れたことは、色や形など造形的な要素に着目する見方を確かめるのに有効であったか

第3時の後半に4, 5人のグループ内で問題文を検討する語り合いを行った。AとBが選んだ作品と、作った問題文は以下のとおりである(資料1)。

資料1 AとBが選んだ作品と、作った問題文

Aが選んだ作品	Aが作った問題文
<p>「秋冬山水図」 「四万山水図」 (雪舟)(模写) (文伯仁)(模写)</p> 	<p>「指さして答えられる問題」 ●人は、どこにいますか。 ●ふねは、どこにありますか。 ●人が作ったものは、どこに、いくつありますか。</p> <p>「考えて答える問題」 ●この二つの作品をさうつする。二つの作品の描き方のちがいは、何 ふいさをおすものは何ですか。ですか</p>
Bが選んだ作品	Bが作った問題文
<p>「緑のポットと鉛の水差しのある静物」 (セザンヌ・油彩)(模写)</p>  <p>「りんごとミルクポットのある静物」 (セザンヌ・水彩画)(模写)</p> 	<p>「指さして答えられる問題」 ●1. ナイフはどこにあるでしょう。(20) ●2. リンゴは何個あるでしょう。(20) ●3. 食べ物は何個あるでしょう(15) ●3. この作品(緑のポット)とこの作品(りんごと...)の 共通点をあげてください。 ●4. この作品(りんごと...)の持ちょうを2つあげて ください。 ●この作品の持ちょうを表現している色3つの どれでしょう。A.赤 B.きいろ C.青や白</p> <p>「考えて答える問題」 ●1. この(灰色)のポットの中身は何でしょう。(15) ●2. この作品(りんごと...)を描いたポールセザンヌ という人はどういう気持ちでこの絵を書いたで しょうか。 ●3. この作品(緑の...)をみて、思う事は 何ですか? ●もしもこの作品(りんごと...)の色が日替 なったら、雰囲気はどう変わるでしょうか。</p>

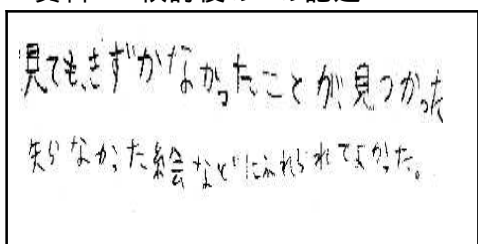
Aにとって問題作りは難しいようであったが、教師の支援を得て2種類の問題文を作ることができた。問題文の検討の際、Aはしきりに問題文を見直しており、自信をもてない様子であった。Aが作った雪舟と文伯仁の作品についての『指さして答えられる問題』『人はどこにいますか。』『ふねは、どこにありますか。』『人が作ったものは、どこに、いくつありますか。』について、友達は「よく見たり数えたりすることのできる問題だと思う。」と感想を述べた。

Aが作った『考えて答える問題』の「二つの作品の描き方の違いは何ですか。」には、「難しいけどよく見て考えれば答えられそうな問題だと思う。」という感想が出た。Aはこれらの感想に周囲の友達がうなずいてるのを見て笑顔を浮かべていた。Aは自分の作った問題文が問題作りの条件に合っていることが分かり、問題のよさを友達に認めてもらったことで安心した様子であった。

Aの作った問題については問題表記上の指摘もあった。それは次のとおりである。『考えて答える問題』の「この二つの作品を共通する雰囲気を出すものは何ですか。」について、友達から「二つの作品を共通する雰囲気を出すもの」ではなく、「二つの作品に共通する雰囲気を出しているもの」のほうが意味がよく通じると思う。」という意見が出た。その意見にAは「ああ、そうか。」と納得した様子であった。その後、Aはその問題文を「この二つの作品に共通する雰囲気を出しているものは何ですか。」に修正した。問題文の検討後に行った質問紙調査で、Aは資料2のように書いた。

このほか、設問に対するAの回答から分かったことは、Aが「意見があまり出なかったけど、問題文が分かりやすくなって、問題文作りに少し役立った」と感じたことである。Aがこのように答えた理由は、Aの問題文が条件に合っていて、よく見て考えることを促すことを友達から認められたことや、友達の助言で問題文を修正できたからである。また、Aが「意見があまり出なかった」と答えたのは、Aの問題文についての友達の意見に対して「いいと思います。」と述べるだけで、それ以上詳しく自分の意見を言わない友達がいたからである。

資料2 検討後のAの記述



見てもさすがに良かったことか見つかった。
知らなかった絵やりにみられて良かった。

一方、Bの問題検討は次のとおりであった。セザンヌの油彩画についてBが作った『指さして答えられる問題』の「ナイフはどこにあるでしょう。」について、「一目で答えが分かるので簡単すぎる。」という意見が出た。また、「りんごは何個あるでしょう。」については「かくれているりんごもあるから、すぐに答えが分からないのでいい問題だと思う。」という意見が出た。Bが作った『考えて答える問題』の「二つの作品の共通点を挙げてください」には、「じっくり考えて答えられそうな問題だね。」「答えがすぐに分かりにくくて、いい問題だと思います。」という意見が出た。

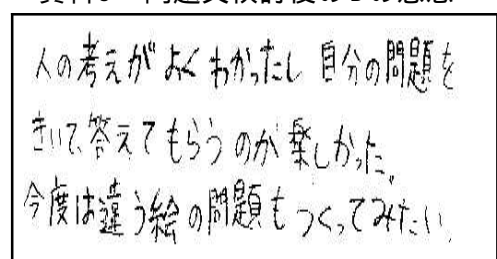
セザンヌの水彩画についてBが作った『考えて答える問題』の「この作品の特ちょうを表している色は、次(赤・黄色・青や白)のうちどれでしょう。」については、「どの色も使われているから、人によって答えが違うと思うよ。」という意見が出た。Bが「答えは黄色だよ。」と、用意しておいた答えを言ったところ、その答えに賛成した友達もいたが、別の友達からは「青や白のほうが特徴を表しているよ。」という意見が出た。

このように意見が分かれたことについて、Bは初めのうちは意外そうだったが、そのうち「そうかあ。」と納得した様子であった。友達のいろいろな意見を知ったBは、自分が選んだ作品は、見る人によって感じ方が違うことが理解できたようであった。Bにとって、問題文の検討は意義があったことが、資料3から読みとれる。

問題文を検討したことについてAは「少し役立った」と答え、Bは「とても役立った」と答えた。

第1時に欠席した1名は、「あまり役立たなかった」と答えた。そのように答えた理由は、本時での作品選びや問題作りに時間がかかり、途中から問題文の検討に加わったので、十分に問題の検討ができなかったからだということが分かった。

資料3 問題文検討後のBの感想



人の考えがよくおもしろい。自分の問題を
きいて答えてもらうのが楽しかった。
今度は違う絵の問題もつくってみたい。

問題文の検討後、学級全員に質問紙で尋ねた結果をまとめた(表3)。

検討中の観察から、問題文を自力で作れた子供たちの中には、問題文の検討の際、自分と異なる意見があまり出な かったと感じた子供がいることが分かった。そこで、グループの友達に聞いてみると、先に発言した友達の意見が自分の意見と同じだったので、意見を付け足す必要を感じなかったからであることが分かった。

継続観察や記述によると、問題文を自力で作れた子供たちにとって、問題文を検討し合ったことは、色や形に着目した見方ができていることを事前に友達同士で確認することで自分の見方で作った問題文に自信をもち、問題発表会で意欲的に発表できるよさがあることが分かった。

以上のことから、問題文を検討する語り合いを取り入れたことは、色や形など造形的な要素に着目する見方を確かめるのに有効であると判断した。

表3 問題文検討後の調査結果

問題文を検討したことは、あなたの問題文作りに役立ちましたか(37人中)	
とても役立った 13人	少し役立った 23人 (A)
あまり役立たなかつた 1人(B)	役立たなかった 0人

2 問題を出して答えを求め合う語り合いを取り入れたことは、造形的な要素に着目して意見交換しながら友達の考えを知ることにつながり、作品の見方を深めるのに有効であったか

第4・5時「見方を深める段階」において問題発表会を行った。子供たちは問題文を検討したグループのメンバー以外の友達4～5人にむけて、交代で問題を出し合った。

Aが『指さして答えられる問題』の「人が作ったものは、どこにいくつありますか。」を出題すると、子供たちは描かれた事物を数えながら、お互いの答えを確かめ合っていた。集中して問題の答えを見付けている友達の様子を見て、Aは笑顔を浮かべていた。続いてAが『考えて答える問題』の「二つの作品に共通する雰囲気を出しているものは何ですか。」を出題すると、子供たちは難しそうな表情を浮かべていたが、やがて「色だと思う。どちらも黒や灰色で書かれているから。」「線の描き方も雰囲気を出していると思う。」と口々に述べた。『考えて答える問題』の「二つの作品の描き方のちがいは何ですか」に対しては「雪舟の絵は文伯仁に比べて線が太い。」「雪舟の絵のほうが線が少ない。」「雪舟は人や家を描いている。」といった意見が出た。

子供たちは問題を出して友達に答えを求めた後、最後に「自分の選んだ作品について思うこと」を述べた。Aは「秋冬山水図」(雪舟)と「四万山水図」(文伯仁)について、「この作品を選んだ理由は、どちらも静かな雰囲気が気に入ったからです。雪舟と文伯仁の作品はどちらも水墨画です。墨で描かれているので静かな雰囲気が出ていると思います。雪舟の作品の構図は、よく見ると真ん中に老人が描かれていて、左下に川や舟が描かれています。見ているといろいろ想像できて、いい絵だと思います。」と述べた。

Bは静物を描いたセザンヌの油彩画と水彩画について、「私がこのセザンヌの絵のペアを選んだのは、雰囲気も似てるし、すごくすてきな絵だったからです。私はこの絵を見て、色調がすごく本格的ですてきだと思いました。立体的で迫力のある絵だったのでこの絵を選びました。水彩画のほうは明るい色調でほんわかしています。油彩画のほうは本格的に描かれていて本物みたいだと思いました。暗い色調で、周りは夜みたいだけど、テーブルの上は明るくしてポットや食べ物などを目立たせていると思います。」と述べた。AとBともに、作品の造形的な要素に着目して、色や形などの特徴を挙げて述べることができた。

本題材終了後に学級全員に行った質問紙調査によると「色調や構図などに気を付けて見ることができましたか」に対して、AとBを含む37人中33人の子供が「できた」と答えた。「分からない」は4人、「できなかった」と答えた子供はいなかった。「作品の見方が深まったと思いますか」という質問に対しては、Bを含む28人が「深まった」と答え、Aを含む9人が「分からない」と答えた。これは、抽象的な質問に対する解釈に迷いや自分に厳しい評価をしたりしたことの反映であると解釈する。なお、作品の見方が「深まらなかった」と答えた子供はいなかった。資料4にも、問題文を作ったり問題の答えを考えたりした成果が現れている。

資料4 子供たちが問題発表会後に記述した感想（上段左がA。上段右がB）

<p>絵のちがいで、同じ所を見つけると、楽しい、勉強になった。 ほかの子から、いろいろ意見も聞けた。</p>	<p>人の考えがよくおもしろい。自分の問題をきいて、答えてもらうのが楽しかった。 今度は違う絵の問題もつくってみたい。</p>
<p>自分が思ったこととちがう答えがかえってきたときはどうしてそうなるのかなと思って楽しかった。 きょうう点やちがう点をたくさん見つけられる力が少しでもついたと思う。 いろいろな画家をみることができよかったです。</p>	<p>ふたぶん、みない作品をみて、つがっていなからた、勉強をいはいったようでした。 2人の作品を見て、ちがいをさがすのは、とても、たのしかったです。 問題もたくさん作れて、とてもいい体馬金をしたと思います。</p>

これらの結果から、問題を出し合う語り合いを取り入れたことは、子供たちが造形的な要素に着目して意見交換しながら友達の考えを知ることにつながり、作品の見方を深めるのに有効であったと判断した。

研究のまとめと今後の課題

大多数の子供たちが作品の造形的な要素に着目する見方を理解し、作品の見方を深めることができた。また、子供たちに美術作品に対する興味・関心をもたせることができた。

問題文を検討する語り合いの前に、一人一人の子供が2種類の問題をできるだけ多く作ることができるよう、時間的な配慮や個別の支援をする必要がある。

友達の意見に対する感想や質問などを進んで述べ、活発に語り合うことができるように、日ごろから各教科等で少人数グループによる話し合いの経験を積んでおく必要がある。

参考文献

- 『図画工作科・美術科における鑑賞授業モデル及びプログラムの開発に関する研究』
新井 哲夫（群馬大学教育学部教授）研究代表
平成12年度～平成14年度 科学研究費補助金 基礎研究(C)(2) 研究成果報告書(2003)